

第 7 回 高校生東南アジア小論文

コンテスト

優秀賞

山形県立山形東高等学校 2年

鈴木 沙都さん

インドネシアの「ゴミ問題」を改善するために、環境先進国であるドイツの取り組み・制度を参考にした、インドネシアに合った取り組みが必要になるのではないか。

2022年、インドネシア国内では6850万トンのゴミが排出された。同年、日本国内のゴミ総排出量は4167万トンであった。インドネシアの人口が、日本の約2.2倍であることから考えても、排出量としては問題ではないと言えるだろう。では、何が問題なのか。分別とリサイクルである。その排出量に対する分別とリサイクルの割合は、それぞれ全体の9パーセントと7パーセントだ。ただでさえも低いと言われる日本のリサイクル率が約20パーセントであることをふまえると、インドネシアのリサイクルの現状がよく分かるだろう。そして、リサイクルされなかったプラスチックをはじめとしたゴミは、海洋汚染問題に発展してしまっているのだ。

この状況を改善するために、私が提案する

のは、環境先進国であるドイツの取り組みを基としつつ、インドネシアの社会に合った取り組みだ。ドイツには、「プファンド」というデポジット制度がある。これはプラスチック容器などの購入時に、デポジットを支払い、返却することで同額が返金されるシステムである。しかし、インドネシアではすでに多くの容器のゴミが路上に捨てられている。そこで、購入したものに限らず、路上に捨てられていた容器も回収の対象とし、少額でも得られるシステムにするのはどうだろうか。近年、自動販売機の普及も進んでいるため、その隣に設置することも効果的だと思う。回収した容器などは、また新しい製品にして販売できるため、事業を進める側としてのメリットも十分にあり得るだろう。

また、インドネシアはキャッシュレス決済利用者の割合が95パーセントと非常に高いそう。このシステムの返金方法は、現金に限らず、さまざまなキャッシュレス決済サービ

スを用いることもできる。

インドネシアの社会は、「ゴミ問題」によって否定的に捉えられる部分もあるだろう。その一方で、人口は増加し、キャッシュレス決済サービスの普及も著しい。インドネシアの「ゴミ問題」の改善には、これらの良い面を活用していくことで、よりよい結果に結びついてくるのではないだろうか。

このような理由から、インドネシアの「ゴミ問題」改善のために、ドイツで取り組まれているデポジット制度を用いた、ゴミ回収・リサイクルシステムを提案する。

参 考 資 料 :

ホ ー ム ペ ー ジ

① Spaceship Earth

② 日本のリサイクルの現状と先進国ドイツの
取組事例を紹介 | 生まれ変わって何になる？

③ <https://spaceshipearth.jp/recycle/>

ホ ー ム ペ ー ジ

① JETRO

② 「ピンチをチャンスに」環境問題に取り組
むスタートアップ（インドネシア）

③ <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2021/0401/bbd147d0e652efd4.html>

ホ ー ム ペ ー ジ

① 山田コンサルティンググループ株式会社

② インドネシアでごみの回収・再資源化の動
き

③ https://www.ycg-advisory.jp/learning/oversea_175/

ホ ー ム ペ ー ジ

① 環境庁

② 一般廃棄物の排出及び処理状況等

③ https://www.env.go.jp/press/press_01383.html

ホームページ

- ① インドネシア総合研究所
- ② インドネシアにおける自動販売機事情
- ③ <https://www.indonesiasoken.com/news/vending-machine-situation-in-indonesia/>

ホームページ

- ① VISA
- ② Consumer Payment, attitudes Study 2022
- ③ <https://www.visa.co.th/dam/VCOM/regional/ap/documents/visa-cpa-report-smt-2022.pdf>

ホームページ

- ① 資源循環・廃棄物研究センター
- ② なぜ日本のごみのリサイクル率はヨーロッパに比べて低いのか
- ③ <https://www-cycle.nies.go.jp/magazine/kenkyu/202008.html>